



食卓囲み世代交流



「ふれあいハート食堂」への参加を呼び掛ける「ボランティア北川副」の坂田艶子会長（右）と北川副まちづくり協議会の福田志利会長＝佐賀市の北川副公民館

北川副町で「ふれあいハート食堂」

坂田さんが校区内に、貧困ではなく、食卓を家族で囲め
家庭が多いと耳にしたことが、まず、一人で食事をとる子ども
きつかけ。心配は栄養面だけの姿も気になった。全国各地

佐賀市の「ボランティア北川副」（坂田艶子会長）は14日
から、小学生と高齢者を対象にした「ふれあいハート食堂」
を北川副公民館で開く。月1回、原則第2土曜日の午前11時から午後2時
まで、カレーライス約200食分を準備する。坂田会長は「食事を囲みな
がら子どもと高齢者が交流する時間にしたい」と話す。

14日開店 月1回カレー200食

「ふれあいハート食堂」への参加を呼び掛ける「ボランティア北川副」の坂田艶子会長（右）と北川副まちづくり協議会の福田志利会長＝佐賀市の北川副公民館

では、子どもたちに温かい食
事や居場所を提供する「子ど
も食堂」が広がっていること
を知り、開設を模索した。地
域には一人暮らしの高齢者が
増えていることから、世代間
交流ができる食堂づくりを考
えた。

開設準備を進めると、話を
入つて聞いた農業者から
「米を月に20kg提供できる」
との善意も届けられた。当面
は65歳以上200円、小学生
100円の参加費で野菜や肉
などをまかなう予定。調理は
ボランティア北川副のメンバ
ーら約20人が担う。

（佐賀新聞 2018.4.11 付）

◎記事から読み取ろう

○坂田会長が「ふれあいハート食堂」を開くのはなぜだろう。

◎自分の考えをまとめよう *友達と意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○坂田会長の考え、行動、ことばから印象に残ることはどこですか。